

< アルトゥーロ・エスカンドンさん >

日本は、独自の文化の力が非常に強い国だと思います。空間の中にぎっしり文化が詰まっている。クリティカル・マス (限界質量) が大きい感じです。ジャーナリストのアルトゥーロ・エスカンドンさんは、初めて日本にやって来たとき、独特の密度の濃い空気を感じ取ったという。

一見、外国文化の影響を受けているように見えても、どこからともなく強烈に日本の色がにじみ出る。表層の下に横たわる、見えない日本文化の存在は大きい。「みなさんは気が付かないかもしれませんが、文化的な密度の濃さは日本の特徴のひとつだと思います。狭い空間をたくさんの人間で共有しあう人口密度の高さに関係しているのかもしれないね」

アルトゥーロさんは、チリ出身。保育園から大学まで、地元の首都サンティアゴで過ごした。スペイン系の家庭で育ったため、チリ人でありながら、スペイン人としてのアイデンティティーも兼ね備える。南米では、あらゆる国の血が混じっています。だから、国籍はフィクションみたいなもの。大学ではジャーナリズムを専攻し、卒業すると、逃げるように国を出た。軍事政権下での生活にうんざりしていたのだ。密告やスパイ、常に疑惑に満ちた社会だった。「あのころの記憶は、いまでも心に深く残っています」



ニュージーランドに渡った後、オーストラリアで1年ほど過ごした。日本へは、広告関係の仕事がきっかけでやって来た。以来、関西で暮らして9年になる。

現在、スペインのマドリードを拠点とする新聞「EL MUNDO (エル・ムンド)」の記者として日本に関する記事を書き、立命館大などで講師をしている。「北朝鮮拉致問題は、マドリードが拉致現場として関係があるので、ニュースとしてスペインでも関心があります」

時折、チリの家族は恋しいと思うが、故郷にはめったに帰らない。「私の場合、仕事と個人的な関心は一致しています。社会ときちんと向き合っていたいのです。日本ではチリワインは有名になりましたが、チリの本当の姿があまり知られていないのが残念です。ジャーナリストとして、日本から世界を、世界から日本を見つめていく。」

写真 = 日本は文化の密度の濃い国だという(JR京都駅)